



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

9月号—No.328

2022.8.25

(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【花葉色(はなばいろ)】山吹色に近い少し赤みがかった黄色。

経糸(たていと)を黄色、緯糸(よこいと)を山吹色の糸で織った織物の色。経緯を異なる色の糸で織った織物で有名なのが天皇が着用する袍の色として禁色になっている麴塵(きくじん)で、こちらは経が青色、緯が黄色。この「織色目」は、表裏の色を重ねる「合わせ色目」、重ね着の「襲色目」と同じかさね色目のひとつ。

●目次 / contents

今月のニュース..... 2

「地域創造フェスティバル2022」報告

財団からのお知らせ..... 4

2023・2024年度「公共ホール音楽活性化事業(導入プログラム)」登録アーティスト決定/全国市町村国際文化研修所(JIAM)「市町村長特別セミナー『地域経営塾』」募集開始/(一財)自治総合センター「地域の芸術環境づくり助成事業」募集開始/令和4年度「公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)」スタート

今月の情報..... 6

地域通信/特集 アートプロジェクト

今月のレポート..... 12

東京都調布市 調布国際音楽祭2022

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル 9F
Tel. 03-5573-4066 Fax. 03-5573-4060
URL: <https://www.jafra.or.jp/>

感染症対策を行い、3年ぶりの通常開催実現

地域創造フェスティバル2022 報告

2022年7月26日、27日



写真左上: シンポジウム「変化する地域と越境する文化の役割~地域と文化芸術をつなげるコーディネーター~」

右上: おんかつ支援プレゼンテーション
浜まゆみさん(マリンバ)

左下: ダン活プレゼンテーション
長井江里奈さん

右下: おんかつ支援プレゼンテーション
中野翔太さん(ピアノ)と田中拓也さん(サクソフォン)

●地域創造フェスティバル

地域創造の事業紹介を目的に年1回開催しているフェスティバル。公共ホール音楽活性化支援事業の登録アーティスト、公共ホール現代ダンス活性化事業の登録アーティストによる多彩な実演(プレゼンテーション)、シンポジウム、セミナーなどを実施するとともに、財団事業の説明会を開催。アーティストや全国のホール関係者、専門家が一堂に集い、交流する貴重なプラットフォームとなっている。会期中に都道府県・政令指定都市文化行政担当課長会議を同時開催。

多くのアーティストと公共ホール職員の交流の場となっている地域創造フェスティバル。2020年度は中止を余儀なくされ、昨年度は一部オンラインにし、通常は同時開催していた「公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)」の登録アーティスト・プレゼンテーションを10月に分散開催するなど縮小。今年度は7月26日、27日に東京芸術劇場を会場に、都道府県・政令指定都市文化行政担当課長会議も含めて3年ぶりの通常開催が実現しました。予定の変更等もありましたが、登壇者や出演者にはPCR検査など感染症対策にご協力いただくなど、ご理解をいただきました皆様にご心よりお礼申し上げます。

●「コーディネーター」をテーマにシンポジウム

昨年度は企画が見送られたシンポジウムですが、今回は最新の調査研究報告書「地域と文化芸術をつなげるコーディネーター インタビューによる事例調査報告書『変化する地域と越境する文化の役割』」を踏まえた議論が行われました。当初は調査研究のアドバイザー・事例調査対象者の4名がパネリストとして登壇する予定でしたが叶わず、急遽、メンバーを変更するとともに、欠席となったアドバイザーが資料を

交えた映像でプレゼンテーションするなど、臨機応変に対応した上で実施にこぎつけました。

東日本大震災以降、文化芸術がどのような役割を果たせるかが改めて問われ、地域創造でも4カ年にわたって調査研究が行われました^(※1)。その中で提言されたのが「文化的コモンズ」^(※2)と、それを形成するためにいろいろな人・団体と繋がり、地域と文化芸術の繋ぎ手となるコーディネーターの必要性です。それを受けた今回の調査では、コーディネーターの活動を具体的に紹介し、人材のあり方について考察するため、6組7名のコーディネーターおよび関係者へのヒアリングが行われました^(※3)(報告書はHPからダウンロード可能)。

ヒアリング対象は、市民協働がキーワードのいわき芸術文化交流館アリオスの長野隆人さん、住居を開放してセミパブリックな機能をもたせる「住み開き」で知られるアサダワタルさん、横浜市と組んで教育普及事業のプラットフォームを運営しているNPO法人STスポット横浜の小川智紀さんと田中真実さん、長野県上田市で犀の角というゲストハウスのある民間小劇場を運営する一般社団法人シアター&アーツうえだの荒井洋文さん、信州アーツカウンシルのゼネラルコーディネーターを務める野

村政之さん、住民の自治能力向上が公民館のミッションという那覇市若狭公民館館長の宮城潤さんと、立場もコーディネートの内容も異なる多彩さでした(事例については次号レターで紹介)。

シンポジウムでは、まず、ニッセイ基礎研究所研究理事の吉本光宏さんがこうした調査研究の経緯や今回の論点について説明。「地域社会の課題が複雑化し、行政施策にほころびが生じて対応が求められている。そうした状況に対し、文化芸術には人々に気付きを与えて行動を促し、変化をもたらすポテンシャルがある。コーディネーターのあり方だけではとらえ切れない内容となったため、“変化に対応するための75の糸口”として整理した」と報告しました。対話し、寄り添い、ゆるいマネージメントで関わるのりしろを広げ、役割をDIYし、アーティストの力を借りて人を勇気づけるそのあり方に大いに刺激を受けたシンポジウムでした。

●おんかつ支援とダン活のアーティスト計54組が実演

フェスティバル恒例の登録アーティストプレゼンテーション。ダン活では、バレエ学校卒業後、コンテンポラリーダンスの活動を始めた大島匡史朗さん(福岡拠点)、イスラエルのダンスカンパニーに所属した経験のある井田亜彩実さん(長野・東京拠点)、舞踏出身でこれまで35カ国150都市以上で公演した経験をもつ浅井信好さん(愛知拠点)の新登録アーティスト3人を含む6人が登場。大島さんが言葉を使った身体遊びのワークショップ体験とパフォーマンスを披露するなど、新アーティストもそれぞれの個性を活かしてアピールしました。

48組が出演したおんかつでは、昨年同様アクリル板を挟んでプレゼンテーションが行われました。当日は急遽、自宅からリモートで参加した演奏家もいて、図らずもモニター越しのリモート演奏とリアル演奏によるアンサンブルに挑戦することになりましたが、音響調整の難しさを克服して大成功し、得がたい体験となりました。

また、「ピアノはお菓子から妖精、人間の感

情までさまざまなものを表現している」と言い、それを旅するように演奏した實川風さん、太鼓やウクレレなど他の楽器をヴァイオリンで表現した曲をプログラムした石上真由子さん、「自分たちが暮らしている環境について考えたい」と星をテーマにピアノを暗闇で演奏したり、戦火を逃れたショパンの曲をプログラムした高橋ドレミさん、演奏を分解してカルテットの役割をわかりやすく伝えたアーバンサクソフォンカルテット、出身地である沖縄の民謡をピアノで披露した新崎誠実さんや、2002年に第3期登録アーティストになってから20年にわたって続けてきたアウトリーチが、自身の活動の中心となっていると語ったヴァイオリンの磯絵里子さんらベテラン勢の艶やかな演奏など、それぞれに歩んだ道が伝わるプレゼンテーションとなりました。

*1 「災後における地域の公立文化施設の役割に関する調査研究」(平成24・25年度)、「地域における文化・芸術活動を担う人材の育成等に関する調査研究—文化的コモンズが、新時代の地域を創造する—」(平成26・27年度)

*2 「文化的コモンズ」とは地域の共同体の誰もが自由に参加できる入会地のような文化的営みの総体のこと。文化芸術には地域の活力を創出する力があるが、そのためにはこうした文化的コモンズの形成が必要であり、公立文化施設もその中のひとつとして積極的な役割を果たすことが求められる。

*3 「地域と文化芸術をつなげるコーディネーター インタビューによる事例調査報告書『変化する地域と越境する文化の役割』」
<https://www.jafra.or.jp/library/report/2021/index.html>

地域創造フェスティバル2022 プログラム

1日目(7月26日)

●シンポジウム「変化する地域と越境する文化の役割～地域と文化芸術をつなげるコーディネーター～(令和3年度調査研究事業報告)」(シアターウエスト)
吉本光宏、森隆一郎、津村卓

●ダン活プレゼンテーション(シアターイースト)
長井江里奈、大島匡史朗、井田亜彩実、浅井信好、藤田善宏、康本雅子

●おんかつ支援プレゼンテーション(リハーサルルーム)
【ピアノ】新居由佳梨、佐々木京子、實川風、田村緑、泊真美子 【弦楽器】石上真由子・坂口昌優(ヴァイオリン)、海野幹雄・奥田なな子・加藤文枝(チェロ) 【管楽器】荒川洋・吉岡次郎(フルート)、田村真寛(サクソフォン)、喜名雅(チューバ) 【声楽】大森智子・竹多倫子・乗松恵美・廣田美穂(ソプラノ)、吉川健一(バリトン) 【打楽器】浜まゆみ(マリンバ)、野尻小矢佳(パーカッション&ボイス) 【その他】山本奈央(オカリナ) 【アンサンブル】デュオ・レゾネ(クラリネット&ピアノ)、Quatuor B(サクソフォン四重奏)、Buzz Five(金管五重奏)

●助成・事業個別相談/情報交換会

※都道府県・政令指定都市文化行政担当課長会議を同時開催(シアターウエスト)

2日目(7月27日)

●おんかつ支援プレゼンテーション(リハーサルルーム)
【ピアノ】新崎誠実、岩崎洵奈、今野尚美、酒井有彩、高橋ドレミ、中野翔太 【弦楽器】磯絵里子・高橋和歌・早稲田桜子(ヴァイオリン) 【管楽器】森岡有裕子(フルート)、大石将紀・田中拓也(サクソフォン)、加藤直明(トロンボーン) 【声楽】梅津碧(ソプラノ)、ヴィタリ・ユシュマノフ(バリトン) 【打楽器】大熊理津子・塚越慎子(マリンバ)、新野将之(パーカッション) 【その他】松尾俊介(クラシック・ギター) 【アンサンブル】デュエットウカナエ&ゆかり(ピアノデュオ)、泉真由×松田弦(フルート&クラシック・ギター)、アーバンサクソフォンカルテット・Quartet SPIRITUS(サクソフォン四重奏)

●おんかつセミナー(シンフォニススペース)

[ファシリテーター]おんかつコーディネーター

【基礎編】「おんかつにおけるアウトリーチについて」(山本若子)、「おんかつにおけるコンサートについて」(赤木舞)

【応用編】「アウトリーチの事業評価」(小澤櫻作)、「OutreachからCommunity Engagement—“届ける”から“繋げる”へ」(花田和加子)、「おんかつにおけるインタラクティブ」(仕田佳経)

●助成・事業説明会/助成・事業個別相談/情報交換会

財団からのお知らせ

●2023・2024年度「公共ホール音楽活性化事業(導入プログラム)」登録アーティストが決定しました

令和5・6年度の公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)にて全国に派遣される7組のアーティストを紹介します。現在、令和5年度の実施団体を募集中ですので、こちらの若き演奏家と共に地域にクラシック音楽を届けたい公共ホールの皆さまは、ぜひ「おんかつ」にご応募ください。

募集締切:2022年9月22日(木) 必着

●閑喜 弦介(かんき げんすけ)[ギター]

3歳で父からギターの手ほどきを受けて以来今日に至るまで、クラシックをはじめジャズや編曲を手がけ、各方面からその卓越したセンスと技術に称賛を浴びている。ギター音楽大賞コンクールをはじめ、日本国内外で数々の受賞を経て、2014年よりバリエコルノルマル音楽院にて研鑽を積み、演奏家ディプロムを満場一致の首席で取得。2018年にはリール高等音楽院にてジュディカエル・ペロワの下でフランス国家演奏家資格を取得。その後、バリ地方音楽院JAZZ科を満場一致の首席で卒業。現在は日本に活動の場を移し、引き続き活動の幅を広げている。



●今田 篤(いまだ あつし)[ピアノ]

掛川市出身。2018年第10回浜松国際ピアノコンクール第4位及び2016年世界三大コンクールの一つであるエリザベート王妃国際音楽コンクール(ベルギー・ブリュッセル)にてファイナリスト入賞。これまでにマリン・オールソップ指揮ベルギー国立管弦楽団等海外及び国内のオーケストラと多数共演。リサイタルを日本国内及びフランス、ベルギー、ドイツ、ブラジル、アゼルバイジャン、英国にて行う。現在東京藝術大学音楽学部ピアノ科非常勤講師。



●水谷 桃子(みずたにももこ)[ピアノ]

ピティナ特級準金賞、東京音楽コンクール第2位、浜松国際ピアノアカデミーコンクール第4位、松方ホール音楽賞等受賞。NY・ドローシーマッケンジーアワード優勝。15歳の時に中村紘子氏の推薦で初リサイタルを行う。これまでに著名な指揮者の下、日フィル、東フィル、札幌響、新日フィル、兵庫PAC管、大阪フィル、日本センチュリー響、東京ニューシティー管、大阪響等と共演。J.ローズ氏の招きでIKIF音楽祭にてNYリサイタルデビュー。東京藝術大学を経て、同大学院修了。現在、昭和音大ピアノアカデミー在籍。



●上田 純子(うへだ じゅんこ)[ソプラノ]

国立音楽大学卒業。同大学大学院修了。新国立劇場オペラ研修所修了。Wales International Academy of voice(U.K)修士課程修了。第38回イタリア声楽コンクール ソプラノ特賞。第8回 東京音楽コンクール 声楽部門第1位。第14回世界オペラ歌唱コンクール「新しい声2011」アジア代表。平成24年度文化庁派遣芸術家在外研究員として渡英。またイタリア・トリエステヴェルディ歌劇場、ポローニャ市立歌劇場でそれぞれ研鑽を積み。これまでに、円光寺雅彦、小林研一郎など著名指揮者のもと、東京フィルハーモニー交響楽団、東京都交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団など国内主要オーケストラと共演。二期会会員。



●西村 悟(にしむら さとし)[テノール]

千葉県出身。日本大学芸術学部音楽学科卒業、東京藝術大学大学院オペラ科修了。イタリア声楽コンクールソミラノ大賞、日本音楽コンクール第1位及び聴衆賞受賞。オペラでは新国立劇場をはじめ日生劇場、びわ湖ホール等にて主要役で出演。またコンサートでも国内外のオーケストラと共演。NHKニューイヤーパーフォーマンスや題名のない音楽会等メディア出演多数。千葉県芸術文化新人賞、五島記念文化賞オペラ新人賞、出光音楽賞受賞。藤原歌劇団団員。



●カメハ[パーカッションアンサンブル]

永野雅晴、永野仁美による夫婦打楽器デュオ。共に東京藝術大学大学院修了。それぞれオーケストラやアンサンブルなど幅広く活動しており、デュオとしては保育園・幼稚園から小中高、また特別支援学校や高齢者施設などへ出向いてのアウトリーチ活動を積極的に行っている。カメハとして、現代音楽コンクール「競奏」本選出場、Percussive Arts Web Contest第2位。



●Modétro Saxophone Ensemble(モデトロサクソフォンアンサンブル)[サクソフォン四重奏]

「Modétro」は、「modern(現代風)」と「rétro(古風)」を合わせた造語。バロックから現代を網羅し、その魅力をサクソフォンで伝えたい、という意である。アウトリーチでは優れたコミュニケーション能力を発揮し子どもたちに音楽の魅力を伝え、コンサートでは多岐にわたるレパートリーと小気味良い話で会場を沸かせ、聴衆と共に時空を遊ぶサクソフォン・カルテットである。2021年ファーストアルバム『Realize』をリリース。



●公共ホール音楽活性化事業に関する問い合わせ
芸術環境部 永田・仕田
Tel. 03-5573-4064

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●全国市町村国際文化研修所(JIAM)「市町村長特別セミナー『地域経営塾』」の募集開始

全国の市区町村長・副市区町村長および部長級職員を対象に、全国市町村国際文化研修所(JIAM)との共催により「市町村長特別セミナー『地域経営塾』」を実施します。この事業は、自治体の長または幹部職員が知っておくべき地域づくりにおける文化・芸術の役割等を学んでいただくことを目的としているものです。セミナーは2日間にわたって行われ、1日目に、劇作家・演出家、芸術文化観光専門職大学学長の平田オリザさんによる講演「本気の文化によるまちづくり」を予定しています。ま

た、地域での活動経験が豊富なおんかつ支援登録アーティスト・宮本安子さん(マリンバ・打楽器)と共演者・後藤ゆり子さん(マリンバ)によるミニコンサートを行い、感染症対策を取りながらのアウトリーチを模擬体験していただきます。

研修の詳細および参加方法は、JIAMホームページ(<https://www.jiam.jp>)をご確認ください。

[研修日程] 2022年10月27日(木)、28日(金)
[会場] 全国市町村国際文化研修所(JIAM)
〒520-0106 滋賀県大津市唐崎2-13-1
[申込締切] 9月30日(金)
[主催・問い合わせ](公財)全国市町村研修財団
全国市町村国際文化研修所(JIAM)教務部
Tel. 077-578-5932

●(一財)自治総合センター「地域の芸術環境づくり助成事業」の募集開始

(一財)自治総合センターでは、宝くじの社会貢献広報事業であるコミュニティ助成事業の一環として、公立文化施設の利活用の推進や企画制作能力の向上等を図るため、市(区)町村(ただし政令指定都市を除く。)に対する「地域の芸術環境づくり助成事業」を実施しています。

このたび令和5(2023)年度事業の募集が開始されましたのでお知らせします。締切は各都道府県の文化担当課へお問い合わせください。

[問い合わせ] 一般財団法人自治総合センター
担当: 本藤 Tel. 03-3504-0841
※事業の詳細につきましては、(一財)自治総合センターのウェブサイトをご覧ください。<https://www.jichi-sogo.jp/>
※都道府県から(一財)自治総合センターへの締切は11月30日(水)必着。

●令和4年度「公共ホール現代ダンス活性化事業」実施団体(アーティスト/日程)

- Aプログラム
- 鹿児島県与論町(長井江里奈/11月7日~10日)
- 北海道大空町(中村蓉/12月14日~17日)
- 愛知県西尾市(中村蓉/2023年1月18日~21日)
- 広島県東広島市(マニシア/2023年1月25日~28日)
- Bプログラム
- 岩手県宮古市(北尾亘/4月22日~24日、5月31日~6月5日)
- 沖縄県浦添市(マニシア/7月20日~24日、28日~31日) ※中止
- 大阪府泉大津市(田村一行/7月28日~30日、9月27日~10月2日)
- 愛知県小牧市(康本雅子/10月6日~9日、11月2日~6日)
- 熊本県天草市(藤田善宏/11月18日~20日、2023年1月4日~9日)
- 神奈川県茅ヶ崎市(北尾亘/2023年1月19日~22日、2月15日~19日)
- Cプログラム
- 堺市(康本雅子/2023年2月9日~12日)

●公共ホール現代ダンス活性化事業に関する問い合わせ
芸術環境部 児島・石本
Tel.03-5573-4077・4079

●令和4年度「公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)」がスタート

地域交流プログラム(アウトリーチ、公募ワークショップ)を実施するAプログラム、市民参加作品を創作し上演するBプログラム、アーティストのレパトリー作品を上演するCプログラムを、年度ごとに選択して継続的に事業を実施する「ダン活」。今年度は11団体(右欄参照)が参加し、4月から順次、各地で事業がスタートしています。

宮古市(宮古市民文化会館)は、令和2年度から延期となったBプログラムを実施しました。次世代を担う層の新しいコミュニティの形成と会館が創作活動の中心の場所になることを目指し、宮古市と隣町の山田町で活動するダンスクラブと共に市民参加作品の創作に取り組みました。集まった小・中学生は初めてコンテンポラリーダンスにふれ、戸惑いも見られましたが、日常生活の何気ない動作がダンスへと変化していく「日常ダンス」などのワークを身体

で体験し、自分なりに解釈している様子でした。また、アーティストが地域を訪れるなかで感じた未来への希望や願いを込めて『まほう』と題した作品を創作。市民が作曲したラストナンバーでは袖幕やスクリーンをすべて上げ、徐々に剥き出しになっていく機材や舞台によって現実味を帯びていくという大胆な舞台演出で、「まほう」にかけられているような感覚になりました。場所や市民の記憶が散りばめられ、会館とそこに集う市民の繋がりを感じられる作品となりました。

同じくBプログラムの泉大津市(あすとホール)は、地域の歴史的背景を通してまちに愛着を感じてほしいという思いで、「泉大津の時の流れ」をテーマに和泉国の二ノ宮である泉穴師神社の成り立ちや歴史を宮司さんから聞いたり、「織物の街」を象徴する織物工場を見学するなど、アーティスト

の創作イメージを膨らませました。1回目のクリエイションでは、昨年のワークショップ(Aプログラム)に参加された方、舞踏に興味のある大学教授や役者、地元のダンス教室に通う大学生など8人が舞踏の基本的な動きを体験したほか、アーティストが熱い思いを語る一幕もあり、参加者は舞踏の世界に身を寄せ、10月の本番へ期待を高めていました。



公演『まほう』の様子 Photo: 井田裕基
(Bプログラム 宮古市民文化会館 アーティスト:北尾亘)

地域通信

●地域通信欄掲載情報について
最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。👉マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 梅村・矢嶋

●2022年11月号情報締切
9月22日(木)

●2022年11月号掲載対象情報
2022年11月～23年2月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●北海道釧路市

北海道立釧路芸術館
〒085-0017 釧路市幸町4-1-5
Tel. 0154-23-2381 熊谷麻美
<https://www.kushiro-artmu.jp/>

祈りの造形 地域の記憶 厚岸・国泰寺の200年

道東の厚岸町に江戸幕府によって建立された国泰寺には、歴代の住職が関東からもたらした仏像や仏画、仏具、経典などが、地域の人々の心の拠り所として今日まで大切に伝えられている。本展では、重要文化財23件を含む国泰寺に貯えられた文化資産の魅力をその歴史とともに紹介する。「国泰寺まるわかり！バスツアー」(10月8日)、「厚岸かぐら上演会」(9月17日)など地域交流イベントも充実。
[日程]9月17日～11月23日
(10月18日より一部展示替え)
[会場]北海道立釧路芸術館

●青森県青森市

青森県立美術館
〒038-0021 青森市安田近野185
Tel. 017-783-5243 肥後千春
<https://www.aomori-museum.jp/>

アレコホール特別演奏会 5台ピアノコンサート「10hands Vol.2」

マルク・シャガール作のバレエ『アレコ』の舞台背景画全4作品の揃う巨大空間アレコホールで、5人のピアニストと5台のピアノが奏でる、全国でも類を見ない迫力のパフォーマンスが繰り広げられる。特別企画として県内5人の中高生も合わせ10人で演奏する『ボレロ』をはじめ、さらにスケールと深みを増した5台ピアノの演奏をお届けする。19日の公演はライブ配信も同時開催する。
[日程]9月18日、19日
[会場]青森県立美術館

●仙台市

仙台市市民文化事業団
〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5
Tel. 022-727-1872 富田小緒里
<https://sencla.com/>

仙台クラシックフェスティバル2022

今回で16回目を迎えるクラシックフェスティバル。今年は3日間にわたり68のプログラムが予定されている。1つのプログラムが45～60分程度と短く、クラシックコンサートが初めての方でも気軽に楽しめる。朝から晩までコンサートが行われているので、自分で選んだ公演をほしごする楽しみも魅力のひとつ。0歳児から入場可能な子ども向けプログラムも充実している。
[日程]9月30日～10月2日
[会場]日立システムズホール仙台、太白区文化センター

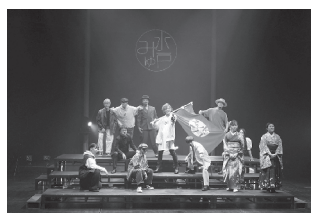
関東

●茨城県水戸市

水戸市芸術振興財団
〒310-0063 水戸市五軒町1-6-8
Tel. 029-227-8123 高比良理恵
<https://www.arttowermito.or.jp/>

目指せミュージカル水戸黄門？ ～光圀青春(ロマンス)篇～

平成25年度から続けてきた、茨城に縁のあるアーティストを紹介する「未来サポートプロジェクト」の次のステップとして、彼らに参画してもらうことを構想し、プロデュース型公演を企画。今回制作されたオリジナルミュージカルは、将来的に茨城発信のレパートリー・シリーズとなるような題材として徳川光圀を取り上げ、



撮影：刑部アツシ(おさかべ写真館)

キャストには俳優や歌手、講師、ダンサー、マジシャンなどさまざまなジャンルの茨城を代表するアーティストが出演する。
[日程]9月16日～18日
[会場]水戸芸術館 ACM劇場

●茨城県日立市

日立シビックセンター
〒317-0073 日立市幸町1-21-1
Tel. 0294-24-7755 井上清正
<http://www.civic.jp/center/>

ひたち市民オペラ25周年記念公演 歌劇《トゥーランドット》ハイライト&オペラガラコンサート

ひたち市民オペラの活動25周年を記念し、これまでに公演した『カルメン』『マクベス』『アイダ』をガラコンサートで、『トゥーランドット』をハイライトでお贈りする。音楽監督兼指揮はイタリアオペラを得意とする松下京介、演出は八木清市。野田ヒロ子や芹澤佳通をはじめとした実力派揃いのソリストとオーケストラ、合唱、舞踊など大勢の市民が日立ならではの舞台をつくり上げる。
[日程]9月19日
[会場]日立市民会館

●埼玉県川越市

川越市立美術館
〒350-0053 川越市郭町2-30-1
Tel. 049-228-8080 濱田千里
<https://www.city.kawagoe.saitama.jp/artmuseum/index.html>

コレクション大公開 相原求一郎展 アンコール

川越市名誉市民であり、洋画家の相原求一郎は、地元川越に拠点を置きながら、北海道の大地に魅せられ、毎年のように冬の北海道の詩情を描き続けた。本展では、多くのファンを魅了した没後20年の回顧展のアンコールとして、館所蔵の相原作品約50点を「北の異郷」「北の大地」「神の風景」という3つの切り口で一挙に公開する。

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

[日程] 7月16日～9月4日
[会場] 川崎市立美術館

●東京都江東区

東京都現代美術館
〒135-0022 江東区三好4-1-1
Tel. 050-5541-8600 西川美穂子
<https://www.mot-art-museum.jp>

MOTアニュアル2022

私の正しさは誰かの悲しみある
いは憎しみ

最新の美術動向を紹介する一方、一つの傾向に括ることのできない多様な美術作品のあり様も紹介してきたMOTアニュアル。今回はこれまで美術館等での紹介が少なかったものの、優れた実力をもつ4名のアーティスト(大久保あり、工藤春香、高川和也、良知暁)に光を当てる。語ることや記述の困難さに向き合い、別の語りを模索するアーティストによる試みを取り上げ、それぞれ新作や、過去の作品の再構成により本展のためのインスタレーションを展示する。

[日程] 7月16日～10月16日
[会場] 東京都現代美術館

●東京都目黒区

めぐろパーシモンホール
〒152-0023 目黒区八雲1-1-1
Tel. 03-5701-2924 井上陽代
<https://www.persimmon.or.jp/>

めぐろパーシモンホール開館20周年記念イベント

～音楽のタネ、めぶくとき～

開館20周年を記念して、打楽器トリオによる「0歳からのコンサート」や、邦楽・金管・声楽を気軽に楽しめる「ワンコインコンサート」、舞台スタッフが案内するバックステージツアーを開催。大ホール公演では、サクソフォン奏者・上野耕平率いる新進気鋭の吹奏楽団ばんだウインドオーケストラが、指揮に原田慶太楼を迎えて贈る吹奏楽コンサートを

を開催。目黒区内の中学校吹奏楽部とのコラボ演奏にも注目。

[日程] 9月3日、4日
[会場] めぐろパーシモンホール

●横浜市

横浜能楽堂
〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘27-2
Tel. 045-263-3055 遠山香織
<https://yokohama-nohgakudou.org/>

沖縄本土復帰50周年記念 横浜能楽堂企画公演 「男の組踊 女の舞踊」

「芸能の宝庫」と言われる沖縄の本土復帰50周年を記念した公演。1日目は男性が演じる芸能として確立した「組踊」を、2日目は戦後、社会の変化とともに女性が活躍し、新しい世界を切り拓いてきた「舞踊」を上演。出演は、昨年初めて琉球芸能で人間国宝に認定された宮城幸子や志田房子をはじめ、第一線で活躍する舞踊家・音楽家が顔を揃える。

[日程] 9月3日、4日
[会場] 横浜能楽堂

●神奈川県座間市

座間市スポーツ・文化振興財団
〒252-0021 座間市緑ヶ丘1-1-2
Tel. 046-255-1100 中野九夢
<http://www.ny.airnet.ne.jp/harmony/index.html>

歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」『修道女アンジェリカ』

座間市を拠点に活動するオペラ団体「オペラ・ノヴェッラ」との共同制作により2009年にスタートした市民参加型オペラ公演。今回は、ノヴェッラ代表を務める古川寛泰の演出(指揮:瀬山智博)で、劇中で演奏される楽曲の中でも「間奏曲」が特に美しい旋律で有名なマスカーニ作曲のオペラ『カヴァレリア・ルスティカーナ』と、母の愛、神への信仰

との間で揺れ動く一人の修道女の心情を切なく描くプッチーニの『修道女アンジェリカ』の2本立て。2021年10月より練習を重ねた、市民合唱団27人の参加を予定している。

[日程] 9月4日
[会場] ハーモニーホール座間



『カヴァレリア・ルスティカーナ』2015年公演

北陸・中部

●新潟市

新潟市芸術文化振興財団
〒951-8132 新潟市中央区一番堀通町3-2
Tel. 025-224-7000 金子文子
<https://www.ryutopia.or.jp/>

りゅーとびあ室内楽シリーズ No.44「3人の女神」

44回目を数える室内楽シリーズ。今回は、結成20周年を迎えたヴァイオリニスト・磯絵里子と神谷未穂のユニット「デュオ・プリマ」と、実力派ギタリスト・河野智美が出演。3人での演奏はもちろん、「磯+ギター」「神谷+ギター」「ギターソロ」「無伴奏デュオ」など1ステージで5回も美味しいスペシャルプログラム。曲間に繰り広げられる絶妙なトークも魅力のひとつ。

[日程] 9月23日
[会場] 新潟市民芸術文化会館

●富山県富山市

富山市ガラス美術館
〒930-0062 富山市西町5-1
Tel. 076-461-3100 古澤かおり
<https://toyama-glass-art-museum.jp/>

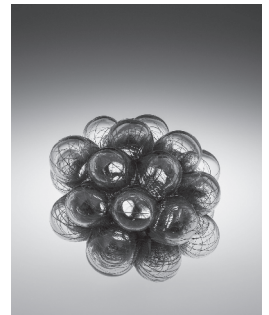
コーニング・ガラス美術館共同 企画 New Glass Now

現代ガラスの“今”を変えた作品

で構成される展覧会。ガラスの特性から引き出される新たな表現や、今日の私たちを取り巻く状況や問題をテーマに制作を行う作家たちの多様な試みを見ることができる。本展は、富山市ガラス美術館が世界最大級のガラスコレクションを誇るアメリカのコーニング・ガラス美術館と締結した、文化プロジェクトに関する相互協力の協定により実現したものの。

This exhibition is organized at the Toyama Glass Art Museum in collaboration with The Corning Museum of Glass

[日程] 7月16日～10月16日
[会場] 富山市ガラス美術館



Aya Oki, Sculpture/ Fate, 2018. CMoG 2019.4.177. Courtesy of The Corning Museum of Glass, Corning, NY.

●福井県福井市

ハーモニーホールふくい
〒918-8152 福井市今市町40-1-1
Tel. 0776-38-8288 古川真由実
<https://www.hhf.jp/>

開館25周年記念公演 ミュージカル『雪の女王』

ハーモニーホールふくい開館25周年を記念して制作された福井発の新作ミュージカル。テレビや映画・舞台で活躍する鶴見辰吾、水夏希をはじめ、約300人の応募者の中から42倍のオーディションで選ばれた実力派キャストと共に、県民も合唱やダンスで60人出演する。音楽はハーモニーホールふくいの登録アーティスト「越のルビーアーティ

スト」のメンバーを中心としたオーケストラが生演奏。ホール自慢のパイプオルガン、福井県にゆかりあるハーブとマリンバの響きにも注目。

[日程]9月19日

[会場]ハーモニーホールふくい

●愛知県高浜市

高浜市やきもの里かわら美術館
〒444-1325 高浜市青木町9-6-18

Tel. 0566-52-3366 井上あゆこ

<http://www.takahama-kawara-museum.com/>

高原洋一 版画展

ELEMENT+ 気・水・土・火・時

「気・水・土・火」の四大元素に「時」を加えたテーマで、版画家・高原洋一のシルクスクリーン作品や備前焼のインスタレーションを紹介。大気の揺らぎにより形成された錆の模様や水面に映る造形の錯覚、土地が伝える記憶、炎が生み出すエネルギーを表現した「気・水・土・火」、時空を超えた人の気配を感じさせる「時」。実在する造形や景色の写真をシルクスクリーンの孔版画技法で彩った作品は海外でも高く評価されている。

[日程]8月6日～11月6日

[会場]高浜市やきもの里かわら美術館

近畿

●滋賀県東近江市

東近江市地域振興事業団

〒527-0039 東近江市青葉1-50

Tel. 0748-23-6862 端洋一

<https://yokaichi-bungei.com/>

東近江創作ミュージカル2022

『日出ずる国 厩戸皇子(うまやどのみこ)』

東近江創作ミュージカルは、「東近江をもっともっと魅力的な街に!」の願いを込めてスタートした市民ミュージカル事業。今回は東近江に関わりが深く、

昨年没後1400年を迎えた聖徳太子(厩戸皇子)をテーマにした作品を上演する。制作協力スタッフ20人、4月の公募・オーディションにより選出された小学3年生～73歳までの出演者23人が、宝塚歌劇団の演出家・中村暁らの指導・監修で公演に臨む。

[日程]9月3日、4日

[会場]東近江市立八日市文化芸術会館 ホール



『日出ずる国 厩戸皇子』制作発表の様子

●大阪府高槻市

高槻市文化スポーツ振興事業団
〒569-0077 高槻市野見町2-33

Tel. 072-671-9999 大倉憲斗

<https://inter-lude.net/>

高槻城公園芸術文化劇場 開館記念イベント

高槻芸術時間「インターロード」

2022年7月に閉館した高槻現代劇場 市民会館の空間を利用した、高槻市初となる現代アート企画。23年3月に現代劇場に代わりオープンする高槻城公園芸術文化劇場のプレ事業で、京都芸術大学アートプロデュース学科との連携事業となる。美術家・梅田哲也は、建物全体を現代アート作品へと変貌させたツアー形式の展覧会『9月0才』を、2人組のアートコレクティブorangeosongは、高槻の街を調査し、新たに書き下ろした遊歩型ツアープロジェクト『演劇クエスト 高槻編』を披露する。

[日程]9月17日～25日

(20日休館)

[会場]高槻現代劇場 市民会館 および高槻市内

●大阪府和泉市

和泉市久保惣記念美術館

〒594-1156 和泉市内田町3-6-12

Tel. 0725-54-0001 橋詰文之

<https://www.ikm-art.jp/>

開館40周年記念 特別展

玉石の美 一人びとを魅了した石の工芸

玉(ぎょく)は翡翠等の貴石でつくられた作品を指す中国美術の一分野。本展では、館所蔵の中国玉器コレクションと国内博物館施設等の作品から、天然の石の美しさを生かした、磨きや彫りの巧みな古代から近世の装飾具、祭祀器、飲食器の作品を紹介する。併せて古墳時代の勾玉に代表される日本の貴石の作品も出陳し、日本や中国で貴ばれてきた美しい石の魅力に迫る。

[日程]9月18日～11月13日

[会場]和泉市久保惣記念美術館

●兵庫県姫路市

姫路市立美術館

〒670-0012 姫路市本町68-25

Tel. 079-222-2288 二宮洋輔

<https://www.city.himeji.lg.jp/art/>

中谷芙二子《白鷺が飛ぶ》

霧の彫刻 #47769

“霧の彫刻家”として知られ世界各地で作品を発表し続ける中谷芙二子が、3カ年にわたり「身体との対話」「風景を聴く」「体・音・光」をテーマに「庭園アートプロジェクト」を展開する。初年度を飾る今年度は、姫路城を借景として展開される《霧の彫刻》によって、美術館前庭を姫路の歴史・文化の現代的な価値が創出される場、人々が集いアートを体験できる場とする。今後は夜間公開も予定。

[日程]7月16日～2023年3月12日

[会場]姫路市立美術館

●奈良県斑鳩町

斑鳩町文化振興財団

〒636-0123 生駒郡斑鳩町興留10-6-43

Tel. 0745-75-7743 青木俊裕

<https://www.town.ikaruga.nara.jp/ikaho/>

第16回斑鳩雅楽フェスティバル～雅楽幽遠の奏～

聖徳太子1400年御遠忌を迎えた昨年、法隆寺をはじめ、国内ではさまざまな関連の催しが執り行われた。なかでも聖徳太子が奨励した雅楽は、人々の救済を切に願われた太子の精神を伝えるものとして訪れた人々を魅了した。聖徳太子ゆかりの地である斑鳩町に、斑鳩雅楽会など県内4団体が集い、管絃と舞楽を悠久の調べに乗せて届ける。

[日程]9月18日

[会場]いかるがホール

●和歌山県和歌山市

和歌山県立近代美術館

〒640-8137 和歌山市吹上1-4-14

Tel. 073-436-8690 宮本久宣

<https://www.momaw.jp/>

特別展 稗田一穂展

2021年3月に亡くなった和歌山県田辺市出身の日本画家・稗田一穂の追悼展。80年以上を日本画の研究に費やした稗田の各時代の主要な作品を通して画業全体を振り返るとともに、アトリエに遺された画稿やスケッチブックなどを併せて紹介することで、その創作の過程もたどる。11月以降は田辺市立美術館、熊野古道なかへち美術館への巡回が予定されている。

[日程]9月10日～11月6日

[会場]和歌山県立近代美術館

中国・四国

●広島県廿日市市

廿日市市芸術文化振興財団

〒738-8509 廿日市市下平良1-11-1

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

Tel. 0829-20-0111 佐藤美穂
<https://www.hatsukaichi-csa.net/sakurapia/>

第20回さくらびあ神楽共演大会

広島県西部を拠点とする神楽団(大森神楽団、玖島神楽団、栗栖神楽団、下五原神楽団、水内神楽団、吉和神楽団)による、3年ぶりの共演大会。『日本武尊〜伊吹山〜』や『天神』など、歴史と伝統の舞を継承する演目が上演される。当日は、ロビーで神楽衣装や写真の展示も行われる。

[日程]9月25日

[会場]はつかいち文化ホール
ウッドワンさくらびあ



栗栖神楽団(廿日市市)
©魂の躍動 konishi

●広島県東広島市

東広島市立美術館
〒739-0015 東広島市西条栄町9-1
Tel. 082-430-7117 大山真季
<https://hhmoa.jp/>

第35回現代絵本作家原画展

戸川幸一郎 おもいコロコロ
つながって

瀬戸内海の江田島を拠点に絵本・絵画・版画・陶芸などさまざまな手法を用いて創作する絵本造形作家・戸川幸一郎の個展。戦後広島で、戦災により住まいを失った人のために家を建てた米国人平和活動家フロイド・シュモアを紹介する『シュモアおじさん』の絵本原画や関連資料を展示するほか、来館者が自由に一筆描いた絵の上に戸川がペイン

ティングを行って作品を完成させる公開制作も企画されている。

[日程]7月30日~9月25日

[会場]東広島市立美術館



戸川幸一郎『シュモアおじさん』より(2016年/シュモアに学ぶ会発行/個人蔵)

●香川県東かがわ市

(一社)パペットナビゲート
〒769-2604 東かがわ市西村1155
Tel. 0879-25-0055 貴志周
https://toramaru.jp/04s_toramaruza/index.html

30周年記念 他分野共同創作・特別公演 バレエ&パペットシアター☆コッペリア

数少ない公立人形劇場のひとつで、公演回数と観客動員において屈指の実績を誇る人形劇場とらまる座。今年で開館30周年を迎え、甲斐バレエアカデミーとの共同創作による特別公演を開催する。他分野との共同創作はとらまる座にとって初の試みで、動く人形を題材としたバレエ作品『コッペリア』を楽しい仕掛けがいっぱいの人形劇と本格バレエのコラボレーションでお届けする。

[日程]9月23日~25日

[会場]人形劇場とらまる座(東かがわ市とらまるパペットランド)

九州・沖縄

●北九州市

北九州市芸術文化振興財団
〒803-0812 北九州市小倉北区室町1-1-11
Tel. 093-562-2620 藤本瑞樹
<http://q-geki.jp/>

モノレール公演『きみをさがして』

アートを通じた新たな街づくりに挑戦する企画として2014年にスタートした、北九州モノレールを舞台に演劇作品を創作する人気シリーズ。始発から終点までの往復60分、約70人を乗せた4両編成の車内が「走る劇場」に変身する。6作目となる今回は、作・演出にままごとの柴幸男が初登場。『銀河鉄道の夜』をモチーフにした新作を、生演奏も交えて上演する。

[日程]9月2日、3日

[会場]北九州モノレール車内

●福岡市

福岡市文化芸術振興財団
〒812-0027 福岡市博多区下川端町3-1 リバレインセンタービル8F
Tel. 092-263-6265 吉津麻央
<http://www.ffac.or.jp/>

フィジカルコメディ舞台

『ケッチスケッチ』

第59回福岡市民芸術祭のオープニングイベントとして、福岡在住の元「が〜まるちよば」の「赤モヒカン」ケッチのソロ公演を開催。本作品はケッチがソロ活動を始めて初の作品で、すべて福岡で制作された。彼の代名詞ともいえるフィジカルコメディ(パントマイム、手品、ジャグリング、即興劇)など、さまざまな身体表現を集約し、言語や文化、年齢の壁を越えて観客を楽しませる。

[日程]9月25日

[会場]東市民センターなみきホール

●長崎県長崎市

長崎県美術館
〒850-0862 長崎市出島町2-1
Tel. 095-833-2110 古賀恭子
<https://www.nagasaki-museum.jp/>

2022年度 長崎県美術館 新収蔵記念 野見山暁治展

満101歳を迎えた画家・野見山暁治のコレクションを新たに加えたことを記念した展覧会。今

もお衰えることがない、ときに軽妙で、ときに重厚な造形力が野見山の絵画世界を支えている。本展では留学時代に赴いたスペイン滞在期(1963年)の作品から2010年までの油彩画12点をはじめ、水彩画や素描を併せ、幅広く野見山芸術を紹介する。

[日程]8月10日~10月10日

[会場]長崎県美術館

●宮崎県宮崎市

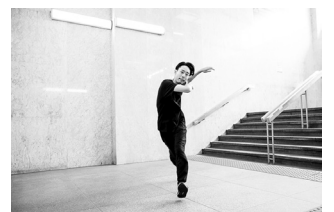
メディキット県民文化センター
〒880-8557 宮崎市船塚3-210
Tel. 0985-28-3208 林田古都里
<https://miyazaki-ac.jp/>

環ROY「遊ぶことば」

パフォーマンスの上演や映画・広告音楽、絵本など、ジャンルを超え幅広く活躍するラッパー、ミュージシャンの環ROYによる市民参加型プログラム。小学5年生から高校生までを対象にしたラップ体験と一般向けのパフォーマンスの2本立て。パフォーマンスでは、参加者と一緒に言葉を繋げていく「Fine Game」と、後半は、環ROYのソロを披露。言葉の意味や音・リズムから紡がれるラップの楽しさを体験できる。

[日程]9月10日、11日

[会場]メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場)



環ROY ©Kaoru Kuwajima

特集 アートプロジェクト

全国各地で開催されている多彩なアートプロジェクトを紹介しします。

※開催地の北から順に掲載。

☒は会場、☒は問い合わせ先です。
(☞は地域創造助成事業)

●札幌市 9月3日～25日

区制50周年記念 南区芸術祭2022 ミナミナイク ミナミナク

南区ゆかりのアーティストたちと、アート作品の展示や音楽イベント、ワークショップ、クラフトマーケットなどさまざまな催しを開催。キッチンカーや南区産の野菜販売もあり、自然とアートが調和する南区らしい内容となっている。ミナミナクは、アイヌ語で「笑顔の私」の意味。地域全体で芸術祭を楽しみ、アートをきっかけにまちを盛り上げる。
☒石山緑地会場、真駒内会場
☒「南区＝アートのまち」プロジェクト実行委員会事務局
Tel. 011-582-4723

●青森県・岩手県三陸沿岸地域 9月～2023年3月

三陸国際芸術祭2022 彩

三陸の魅力の世界に伝え、郷土芸能の魅力を活かした創造的な地域づくりと復興を目的に、2014年から開催。今回は、若い芸能者にフォーカスした「洋と野に舞う三陸未来芸能彩・芸能彩生ミーティング」や地元の子もたちが制作したタイルアートを防波堤周辺に展示する「三陸ブルーラインプロジェクト」などの企画も実施する。

☒青森県八戸市、岩手県洋野町、大船渡市ほか
☒三陸国際芸術推進委員会
Tel. 019-656-8145

●山形県山形市 9月3日、4日、9日～11日、16日～19日、23日～25日

みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ2022

東北芸術工科大学が主催して2014年に始まった現代アートフェスティバル。前回2020年から芸術監督に医師・稲葉俊郎を迎え、「山のかたち いのちの形」をテーマに新たなシリーズを開始。前回はオンライン中心の開催となってしまったが、今回は新たにオープンする「やまがたクリエイティブシティセンターQ1」など、山形市中心市街地を舞台に、現代アートや食、演劇、ダンスなど7つのプロジェクトを実施する。
☒文翔館、やまがたクリエイティブシティセンターQ1ほか
☒東北芸術工科大学
Tel. 023-627-2091

●福島県会津若松市 10月1日～11月3日

あいづまちなかアートプロジェクト2022

会津の文化資源である漆を幅広く紹介する「会津・漆の芸術祭」と、会津にゆかりのあるアーティストの作品などを展示する「とまりぎ美術館で待ちあわせ」の二本柱で開催。蔵や公共施設、まちなかの店舗を会場に、空間の魅力と芸術作品のコラボレーションにより、城下町・会津若松のまちなかをアートで彩る。子どもたちと参加アーティストが共同制作した作品の特別展示も行われる。

☒会津若松市内各所
☒あいづまちなかアートプロジェクト実行委員会(会津若松市文化課内) Tel. 0242-39-1305

●東京都足立区 11月6日 千住・人情芸術祭

「1DAYパフォーマンス表現街」

かつての宿場町であり、人々の

交流や文化の根付く場所だった東京都足立区「千住ほんちょう商店街(旧日光街道)」を舞台に、人と人との価値観や感情のやりとりを“人情”とらえて実施する芸術祭。ジャンルや上手下手を問わず出演者を公募することで多様な表現者を受けとめ、商店街の下見ツアーの実施など、本番前から商店街や表現者との人情を育むことも試みる。

☒千住ほんちょう商店街
☒「アートアクセスあだち 音まち千住の縁」事務局
Tel. 03-6806-1740

●富山県利賀村 8月26日～9月11日

SCOTサマー・シーズン2022

「世界は日本だけではない 日本は東京だけではない この利賀村で世界に出会う」をスローガンに、日本初の国際演劇祭として開催された「第1回利賀フェスティバル」から40周年となる今年、鈴木忠志演出の花火劇『世界の果てからこんにはI』、ギリシア悲劇『エレクトラ』、音楽劇『シンデレラ』とジャンルの違う3作品を連続上演。また「自然と共生する舞台芸術」というタイトルのもと、次代を担う日本の演出家が競演する作品も上演する。

☒利賀芸術公園
☒利賀文化会議
Tel. 0763-68-2356

●長野県東御市 10月8日～11月6日(期間中の土日祝日)

天空の芸術祭2022

東京藝術大学と市の域学連携事業として2015年にスタートした芸術祭。今年「揺り動くアウトライン—身体は思考する」をテーマに、藝大で教鞭を執る美術家や藝大生による滞在制作・展示をはじめ、藝大生によるアートワークショップや、地元小中学生の作品展示などが行われる。

同時期には奈良時代から続く陶芸文化にスポットを当てた「火のアートフェスティバル」(10月8日、9日)も開催。

☒北御牧市民交流サロン、海野宿、芸術むら公園
☒天空の芸術祭実行委員会(東御市文化係内)
Tel. 0268-71-0670

●愛知県長久手市

9月23日～10月10日

ながくてアートフェスティバル2022

アートでまちを活性化し、人と人を繋ぐきっかけの場として始まったフェスティバル。15回目の今年、世代も性別もさまざまな約50組のアーティストの作品が市内各所に展示され、アートを媒介に戦国時代の古戦場でもある街の歴史を辿っていく。山本富章は大型ショッピングモールでピアノの演奏も交えた大型展示を、久野利博は色金山歴史公園の「胡牀庵」(国宝「如庵」を模してつくられた茶室)でインスタレーションを展開する。

☒色金山歴史公園、リニモテラス公益施設ほか市内各所
☒ながくてアートフェスティバル実行委員会
info@nagakuteartfestival.com

●三重県亀山市

10月30日～11月19日

亀山トリエンナーレ2022

東海道の宿場町である亀山を舞台に、市民が主体となって運営している現代アートフェスティバル。2020年、21年とコロナ禍による二度の延期を経て5年ぶりに開催される。出展作品は公募され、今年国内外から95組のアーティストが参加予定。国際交流の場、また若手作家の登竜門として定着している。今回は特別企画として山形ドキュメンタリー映画祭のアーカイブ作品上映

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

会、南條史生の講演会なども行われる。

☑加藤家屋敷、東町商店街ほか市内各所 ☑亀山トリエンナーレ実行委員会
artkameyama@gmail.com

●滋賀県東近江市ほか

10月1日～31日

びわ湖・アーティスト・みんぐる

2022『ガチャ・コン音楽祭Vol.2』

近江鉄道(ガチャコン)が走る地域を舞台にした地域とアートが結びつく音楽イベント。期間中、鉄道車内で流される駅名アナウンスを歌で放送するほか、10月23日には鉄道を使ったツアーライブを実施。今回のテーマは「鐘」。東近江地域に古代大陸より渡ってきたという鑄物文化から着想を得て、アーティストが新作を制作。伝承歌や儀礼音楽、アンビエントミュージック、和歌など、あらゆる音楽が交錯しあうライブを開催する。

☑近江鉄道900形車内、東近江市鑄物師町、長町ほか

☑びわ湖芸術文化財団

Tel. 077-523-7146

●京都市 10月1日～23日

KYOTO EXPERIMENT

京都国際舞台芸術祭 2022

国内外の先鋭的な舞台芸術を紹介し、創造と交流の実験を試みる芸術祭。13回目となる今回はコロナ禍を経て、歩くことや移動することをとらえ直し、身体性と空間、時間を共有し直すことを提案する「ニューてくてく」がキーワード。上演プログラム、ワークショップなどが体験できるエクステンジブプログラム、地域をリサーチした成果を演劇作品化するリサーチプログラムの3つのプログラムを展開する。

☑ロームシアター京都、京都芸術センター、京都芸術劇場 春秋座、TEATRE E9 KYOTOほか

☑KYOTO EXPERIMENT事務局
Tel. 075-213-5839

●兵庫県伊丹市 9月9日～18日

鳴く虫と郷町

江戸時代に庶民の間で親しまれた虫の音を聴いて楽しむ習慣「虫聴き」を現代風にアレンジした、今年で17回目を迎える人気イベント。メイン会場の市立伊丹ミュージアム 旧岡田家住宅・酒蔵を中心に、市内公共施設や商店街、街路樹などに鳴く虫を展示し、虫の音を楽しむことができるほか、音楽や星見会など虫や秋にちなんだ関連イベントも多数開催する。

☑市立伊丹ミュージアム 旧岡田家住宅・酒蔵、旧石橋家住宅、他市内各所 ☑市立伊丹ミュージアム Tel. 072-772-5959



メイン会場での虫の展示

●兵庫県豊岡市、養父市、香美町 9月15日～25日

豊岡演劇祭2022

2019年の“第0回”を経てスタートした演劇祭。豊岡市の7エリアに加えて、新たに養父市と香美町も会場に加わり、9エリアを巡りながら、山海塾やノイマルクト劇場(スイス)と市原佐都子の共同制作など国内外のカンパニーの招聘公演や、公募によるフリンジプログラムなど、多彩な舞台表現にふれられる。また、演劇祭をまちづくりの機会として積極的に活用。地域通貨やスマートフォンを使った非接触型チケットシステムの導入などを進める。☑豊岡市、養父市、香美町各所 ☑豊岡演劇祭実行委員会(事務

局:豊岡市役所大交流課)

Tel. 0796-21-9081

●和歌山県田辺市、白浜町

10月6日～16日

紀南アートウィーク2022

—みかんコレクティブ展—

アートを通じて和歌山県紀南地域の価値を世界に発信することを目指し、2021年から始まったプロジェクト。今年も紀南の特産品であるみかんを中核に据え、みかん農家、アーティスト、地域住民らと共に進めてきたリサーチを基に展覧会を開催。美術作家の廣瀬智央による展示や、「みかん」を起点に土着の神について知るレクチャー・ワークショップ、オンラインによるVRの展示などを展開する。

☑紀南地域(和歌山県田辺市、白浜町)各所

☑紀南アートウィーク実行委員会 info@kinan-art.jp

●鳥取県鳥取市

11月20日～23日

鹿野芸術祭2022

鳥取市の西部に位置し、城下町の風情が残る鹿野町を舞台とした芸術祭。3年をかけてリサーチや滞在制作を行った鹿野在住の画家・藤田美希子による鳥取各所の夜景を描く《鳥取夜景》や、アーティスト・山本晶大による鹿野にまつわる物語を収集し制作を行うプロジェクト「鹿野採話集」など、アーティスト6組7名が参加し、作品を発表する。

☑鳥取市鹿野町

☑鹿野芸術祭実行委員会

Tel. 090-3868-7530

●香川県高松市:5月21日～6月26日/綾川町:10月22日～11月13日

第5回かがわ・山なみ芸術祭 2022

香川県の山間部を舞台に2013

年に始まったアートフェスティバル。アーティストと地域住民の協働で、アートによる地域の活性化、文化創出を目指している。今年も「萌出(もえいづる)」をテーマに春と秋に開催。春は高松市塩江町エリアで、美術家・バルコキノシタによる「芸術の四国遍路展」とも連動して行われ、秋は約35組の作家による作品が、公民館や神社などさまざまな場所に展示される。秋開催プロジェクトとして、夏休み期間中にショッピングモールで展覧作家によるワークショップやグッズ販売などを実施。

☑高松市塩江美術館、奥塩江アートセンター、粉所公民館、山田公民館、松熊神社ほか

☑かがわ・山なみ芸術祭実行委員会 kuraishi.fumio@gmail.com

●愛媛県松山市

4月28日～2023年2月26日

道後オンセナート2022

日本最古の温泉街で開催されるアートフェスティバル。4年ぶりとなる今年も「いきるよこび」をテーマに、アートを通じて人々の五感を開き、熱情を呼び起こす。大竹伸朗、蜷川実花、隅川雄二、尾野光子らと過去最多の約30組のアーティストやクリエイターが参加し、自由に鑑賞できる常設作品を設置するほか、さまざまなイベントも随時開催し、いつ来ても楽しめる芸術祭となっている。

☑道後温泉地区

☑未来へつなぐ道後まちづくり実行委員会事務局

Tel. 089-921-6464

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

東京都調布市

調布国際音楽祭 2022



上：「鈴木雅明×岡本誠司～深大寺本堂に響くバッハ～」/下：「バッハ・コレギウム・ジャパン バッハ超名曲選！」(調布市グリーンホール 大ホール) ©K.Miura

●調布国際音楽祭2022

【主催】公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団、調布市

【会期】2022年6月18日～26日

【会場】調布市グリーンホール、調布市せんがわ劇場、深大寺 ほか

●バッハ・コレギウム・ジャパン

鈴木雅明が世界の第一線で活躍するオーガニカル楽器のスペシャリストを擁して結成したオーケストラと合唱団。J. S. バッハの楽曲を中心に、近年はメンデルスゾーンに及ぶ作品の理想的な上演・普及を主旨として活動。

●調布国際音楽祭

鈴木雅明が調布市在住であり、BCJが市のホールを練習会場としていたことから、2010年に調布市文化・コミュニティ振興財団は音楽芸術の振興と市民文化の向上に寄与することを目的にBCJと「相互協力提携に関する協定書」を締結。以来、リハーサルの無料公開などを行い、市民に親まれてきた。13年に現エグゼクティブ・ディレクターの鈴木優人がプロデューサーに就任してクラシック音楽を中心とした「調布音楽祭」を立ち上げ、グリーンホールなどを会場に毎年開催(17年に調布国際音楽祭に名称変更している)。

東京都調布市で2013年から10年にわたって続く「調布国際音楽祭」。一昨年のコロナ禍でのオンライン開催を経て、今年は過去最長の6月18日～26日の9日間にわたって開催され、22日には人気の深大寺本堂での演奏会も行われた。

院内僧侶による声明の後、音楽祭監修者であり、バッハ・コレギウム・ジャパン(BCJ)音楽祭監督の鈴木雅明(チェンバロ)と岡本誠司(ヴァイオリン)が「BACH TO THE FUTURE」という音楽祭のテーマに相応しいバッハのソナタなど全4曲を披露。聴衆は1695年に建てられた山門の遺る古刹で、1685年に生まれたバッハの豊かな響きを堪能していた。

このほか、ピアニストの角野隼斗(かていん)、明治大学附属明治高等学校・中学校吹奏楽班も出演したオープニング演奏会、公募による若手演奏家と第一線で活躍するプロ奏者が共演するフェスティバル・オーケストラ(2016年発足)、鈴木優人指揮によるN響コンサート、桐朋学園大学学生と公募で選ばれた市民音楽家によるミュージックサロン、子どもたちに向けたプログラム、調布駅前広場でのライブ、そしてコンティヌオ・オルガン(移動可能な組立型パイプオルガン)をホールに持ち込んだクロージングのバッハ超名曲選など、幅広いプログラムが組まれていた。

この音楽祭のエグゼクティブ・プロデューサーを務めるのが、鈴木雅明とは親子で調布で暮らしていた音楽家の鈴木優人だ。

「調布には駅前にホール(調布市グリーンホール)があり、深大寺のような観光地もある。東京に一番近い田舎のようなこのまちに根ざした音楽祭にしたいと思って始めた。このまちにはなかった音楽の質を提示して、相応しい音楽祭を模索してきた。自分だけでなく、BCJのメンバーも調布をホームだと思っている。そういうホームの良さがお客さんにも伝わっているのではないかなと思う」

調布と言えば、今も角川大映スタジオ、日活調布撮影所など40社以上の映画・映像関係

企業が集まる映画のまちであり、市としてもさまざまな事業に取り組んできた。対する音楽祭は30年前から行われてはいたが、地域との連携が十分にできていなかったと調布市文化・コミュニティ振興財団の阿部珠子は振り返る。

「雅明さんが調布市在住だったので以前からBCJにグリーンホールを練習会場として借りてもらっていた。調布には映画だけでなく、これだけの演奏家もいるのだから、何か一緒にできないかと相談した」

当初は財団の自主事業として取り組み、初年度は週末2日間だけの開催だった。好評を受けて翌年は3日間になり、桐朋学園大学とも相互協定を締結し、学生演奏家などが出演するミュージック・カフェをスタート。15年には深大寺が会場に加わるなど内容も会期も拡充。今では市との共催事業となり、今年37のプログラムが実施された。

どの会場でも目を惹いたのが、黒い揃いのTシャツを着たボランティアスタッフだ。「チームCIMF」(開幕時から2016年までは「チームCMF」という名称で活動し、今年58人が参加した。音楽祭開幕当初から続けて参加するスタッフもあり、みんな楽しそうに立ち働き、馴染みになった高名な演奏家親子を「雅明さん、優人さん」と親しみを込めて呼ぶ。

10年を経て、総入場者が約1万人を数え、すっかりまちの誇りになった感⁰がある。これからの夢は?と尋ねると、「味の素スタジアムで野外オペラ『アイダ』とか、多摩川での船上コンサートとかもいいかな?」と優人エグゼクティブ・プロデューサーは夢見る。

バッハという核があるからこそその自由な発想で、調布という「都心に一番近い田舎」の環境が音楽祭を育み、都心への利便性で住み着くまちから、文化で選ばれるまちへ変わる——終わることのない歩みが続いていく。

(ノンフィクション作家・神山典士)